

# 令和元年度 防災・減災に関する県民意識調査結果概要

## 1 調査の目的及び集計結果の概要

### (1) 調査の目的

広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の令和元年度の取組実績の把握運動を進める上での課題の抽出や、その解決方策の検討

- (ア) 対象者：県内在住の満18歳以上の男女5,000人  
 (イ) 調査期間：令和2年2月21日(金)～3月6日(金)  
 (ウ) 有効回答数：2,437件(回答率48.7%)

### (2) 集計結果の概要

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果							R1 (目標)	R2 (目標)
	H26	H27 (10月)	H28 (8月)	H29 (2月)	H30 (2月)	H31 (2月)	R2 (2月)		
災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	13.2%	27.0%	54.0%	60.5%	57.2%	71.2%	<b>68.5%</b>	83.0%	90.0%以上
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	35.1%	30.7%	32.9%	36.8%	39.4%	29.3%	<b>41.5%</b>	58.5%	60.0%
非常持出品を用意している人の割合	52.8%	51.5%	65.9%	67.6%	67.4%	66.5%	<b>69.1%</b>	-	-
上記を用意し、かつ3日以上 の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	-	-	-	46.7%	50.5%	48.1%	<b>52.3%</b>	64.2%	70.0%
家具等の転倒防止を行っている人の割合	-	-	-	43.9%	56.6%	44.7%	<b>49.0%</b>	62.5%	70.0%

行動計画に掲げる成果指標項目	H26	H27 (10月)	H28 (9月)	H29 (2月)	H30 (3月)	H31 (2月)	R2 (3月)	R1 (目標)	R2 (目標)
県、市町の防災情報メールを登録している人の割合	8.4%	10.4%	11.3%	11.3%	22.8%	27.0%	<b>31.1%</b>	35.5%	40.0%

ヤフーと協議し、H30.3.27から、「ヤフー・防災速報」(スマートフォンアプリ、メール)からも県防災情報メールと同様の情報がプッシュ配信されることとなったことから、この度の数値は、防災情報メールの登録者数に「ヤフー・防災速報」登録者数を加えて算出している。

## 2 集計結果の分析等

この度の調査の集計結果について、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の成果指標とする行動をとっている人に見られる傾向などから、その数値を押し上げている主な要因、逆に伸びていない要因や課題などを探るため、例年2月に実施している調査と同様に広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動推進会議の委員でもある2名の有識者により、社会心理学並びに防災の観点からの分析等を行っていただいた。

(有識者) 広島大学大学院総合科学研究科 教授 坂田 桐子 氏(社会心理学)  
山口大学大学院創成科学研究科 准教授 瀧本 浩一 氏(防災)

## 3 行動計画に掲げる成果指標ごとの分析概要

(1)【行動目標】身の周りの災害危険箇所などを「知る」

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果							R1 (目標)	R2 (目標)
	H26	H27 (10月)	H28 (8月)	H29 (2月)	H30 (2月)	H31 (2月)	R2 (2月)		
災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	13.2%	27.0%	54.0%	60.5%	57.2%	71.2%	<b>68.5%</b>	83.0%	90.0%以上

《災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合の内訳》(単位：%)

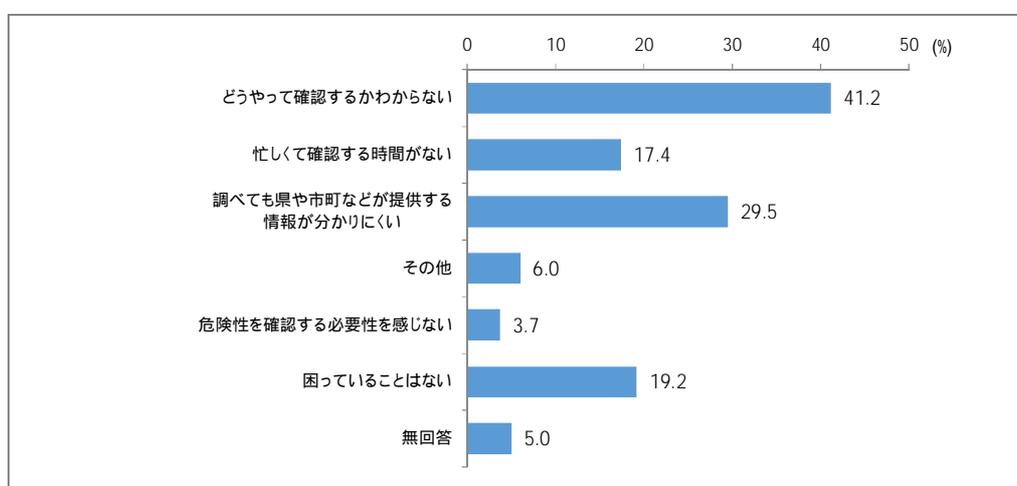
		全体	確認している	確認していない	無回答
全体		100.0	68.5	30.5	1.1
年代別	20歳未満	100.0	42.4	57.6	-
	20代	100.0	50.6	48.2	1.2
	30代	100.0	65.7	34.3	-
	40代	100.0	73.6	24.5	1.9
	50代	100.0	67.0	32.7	0.3
	60代	100.0	70.4	28.7	0.8
	70代	100.0	71.4	27.8	0.8
	80歳以上	100.0	51.9	38.8	9.3
性別	男性	100.0	66.2	32.7	1.1
	女性	100.0	70.5	28.4	1.0
生活形態別	企業・団体勤務	100.0	68.5	30.7	0.8
	自営業	100.0	66.1	33.5	0.5
	農林漁業	100.0	86.4	13.6	-
	家事や育児で在宅	100.0	69.5	29.2	1.2
	学生	100.0	56.6	43.4	-
	定年退職などで在宅	100.0	74.7	23.6	1.7
	その他	100.0	49.9	47.6	2.6

災害の危険性を確認するに当たって、困っていることでは、「どうやって確認するかわからない」が「41.2%」で最も多く、次いで、「調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい」が「29.5%」となっている。前者と答えた割合が高いのは「自営業」、後者と答えた割合が高いのは「企業・団体勤務」となっている。

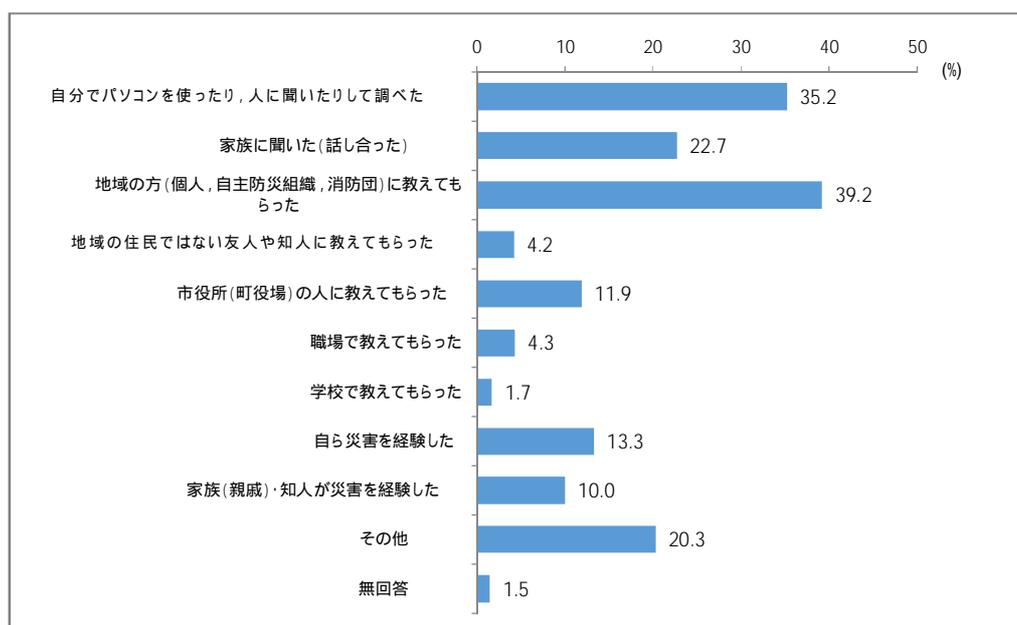
災害の危険性を知ったきっかけとしては、「地域の方（個人，自主防災組織，消防団等）に教えてもらった」が「39.2%」で最も多く、次いで、「自分でパソコンを使ったり，人に聞いたりして調べた」が「35.2%」，「家族に聞いた（話し合った）」が「22.7%」となっている。

なお，避難場所・避難経路を確認していない人について，生活形態別では，「学生」が「43.4%」と最も多くなっている。

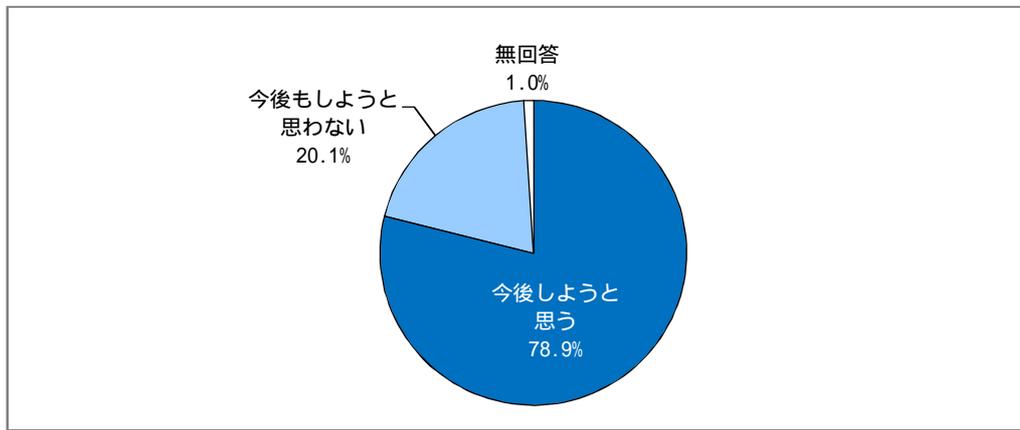
生活形態の分類 ～ 「企業・団体勤務」，「自営業」，「農林漁業」，「家事や育児で在宅」，「学生」，「定年退職などで在宅」



災害の危険性を確認するに当たって，困っていること（問 15）



災害の危険性を知ったきっかけ（問 13）



今後、「避難場所や避難経路の確認」をしようと思うか(問 2-1)

#### ア 有識者による分析や示唆など

- 災害の危険性について、未だにどうやって確認するかが分からない人が4割（「41.2%」）もいることは、大きな課題として受け止めざるを得ない。

住んでいる地域の危険箇所についての確認方法の一層の周知が必要である。

加えて、ウェブ上でも良いので、「防災何でも相談室」といったような窓口を設けてはどうか。

災害の危険性を知ったきっかけとして、「地域の方に教えてもらった」という人の割合が最も高いことから、引き続き、自主防災組織等に対して、住民への啓発活動を働きかけることが必要である。

また、住民の中には、防災に関する情報について、自ら率先して入手することに対応できない人も存在することから、直接住民に情報を届ける、プッシュ型の啓発の手段を強化すべきである。

災害危険箇所等の確認方法の周知については、多様な手段を検討していく必要がある。

#### イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- あらためてハザードマップの確認を促すとともに、災害種別に応じた、避難場所・経路の検索機能を有したポータルサイト「みんなで減災 はじめの一步」の周知等に、これまで以上に取り組む。
- ポータルサイト「みんなで減災 はじめの一步」内に、防災に関する質問を受け付けるコーナーを追加するとともに、当サイトの一層の周知と活用促進に取り組む。

引き続き、自主防災組織の充実を図るため、機運が高まらない地区や活性化していない組織へ、自主防災アドバイザーを派遣し、指導・助言を行い、設立促進や活性化を図るとともに、自主防災組織による避難の呼びかけ体制構築に取り組む。

携帯電話・スマートフォン等のツールを持っていない方や、ツールを持っていて、自ら防災に関する情報を収集しない方に対しても、直接情報が届くよう地域に浸透力の高い広報誌や、回覧板などを活用した情報提供にも取り組む。

ハザードマップ等により、住んでいる地域にある災害危険箇所等をあらためて確認した上で、災害に備えて日頃から何をすべきかや、災害発生の際にいつのタイミングで何をすべきかなどの自らの防災行動計画を作成する「ひろしまマイ・タイムライン」の普及を図る。

また、災害の可視化のための、バーチャルリアリティを活用した教材の制作及びその活用に取り組む。

住んでいる地域の災害リスクを個人毎に通知することについて、検討を行う。

## (2)【行動目標】 災害発生危険性をいち早く「察知」する

行動計画に掲げる 成果指標項目	H26	H27 (10月)	H28 (9月)	H29 (2月)	H30 (3月)	H31 (2月)	R2 (3月)	R1 (目標)	R2 (目標)
県、市町の防災情報メールを登録している人の割合	8.4%	10.4%	11.3%	11.3%	22.8%	27.0%	31.1%	35.5%	40.0%
					( )	( )	( )		

ヤフーと協議し、H30.3.27から、「ヤフー・防災速報」(スマートフォンアプリ、メール)からも県防災情報メールと同様の情報がプッシュ配信されることとなったことから、この度の数値は、防災情報メールの登録者数に「ヤフー・防災速報」登録者数を加えて算出している。

### 《「防災情報メール」の登録意向》

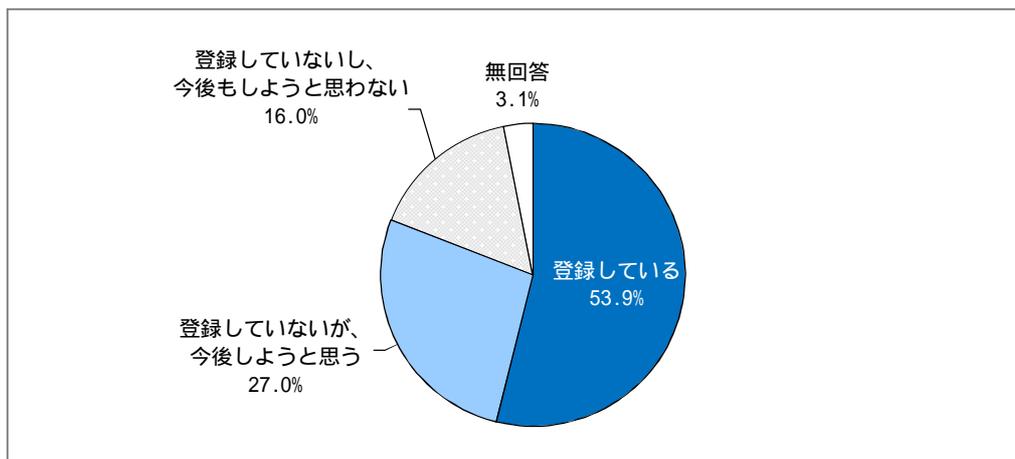
(単位：%)

		全体	登録している	登録していないが、今後しようと思う	登録していないし、今後しようとは思わない	無回答
全 体		100.0	53.9	27.0	16.0	3.1
年 代 別	20歳未満	100.0	28.8	34.7	36.5	-
	20代	100.0	41.9	32.0	26.1	-
	30代	100.0	59.0	24.7	15.7	0.6
	40代	100.0	60.6	27.5	11.2	0.6
	50代	100.0	62.3	25.4	10.6	1.7
	60代	100.0	54.0	27.0	14.3	4.6
	70代	100.0	42.6	27.8	22.7	6.9
	80歳以上	100.0	16.7	27.8	50.9	4.6
性 別	男性	100.0	53.1	26.2	18.2	2.5
	女性	100.0	54.7	27.8	14.0	3.5
生 活 形 態 別	企業・団体勤務	100.0	59.4	26.2	12.6	1.8
	自営業	100.0	48.6	31.1	17.0	3.3
	農林漁業	100.0	46.1	27.3	25.6	1.1
	家事や育児で在宅	100.0	51.5	29.7	16.8	2.0
	学生	100.0	45.9	22.2	31.9	-
	定年退職などで在宅	100.0	48.6	25.5	20.6	5.3
	その他	100.0	36.7	33.4	20.2	9.7

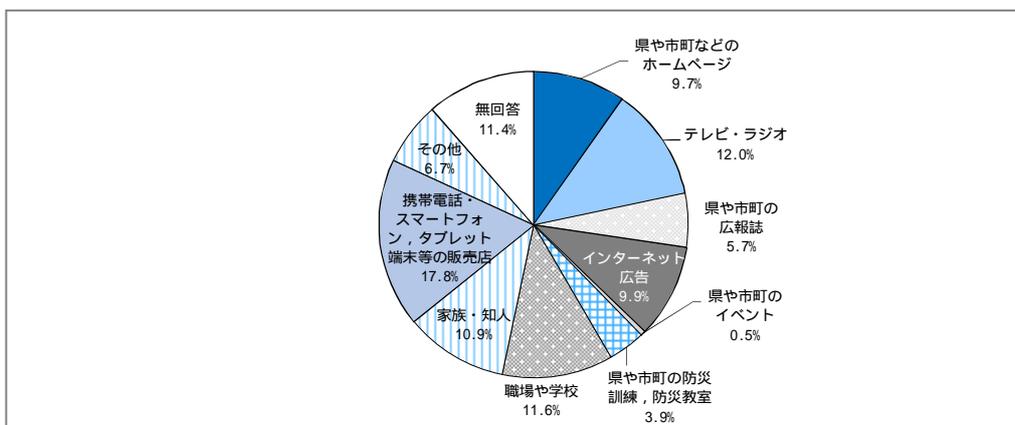
アンケートでは、携帯電話・スマートフォン、タブレット端末を持っている人（9割台半ば）で、5割台半ば「53.9%」が登録している。

登録していない理由は、「登録方法がわからないから」が約5割「50.5%（49.5%）」と最も多い。

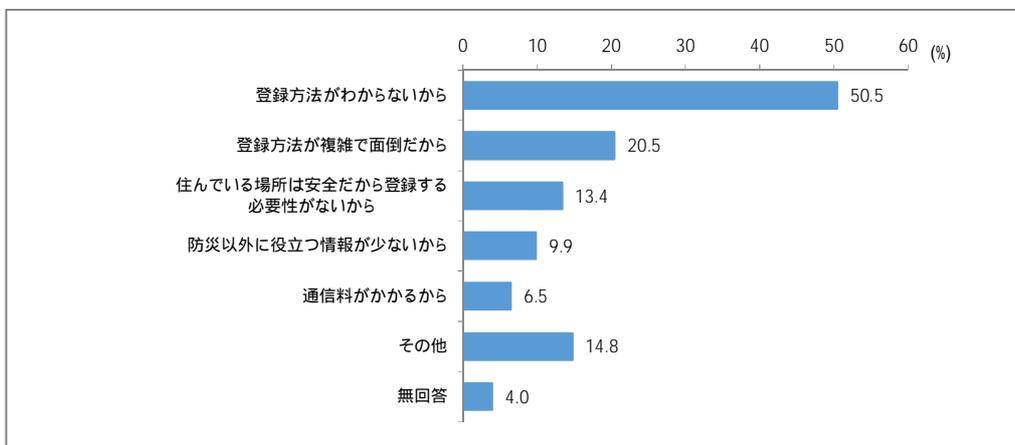
「R2.2 調査数値（H31.2 調査数値）」



県、市町の防災情報メールや防災アプリなどの登録意向（問5）



県、市町の防災情報メールや防災アプリなどを登録したきっかけ（問5-1）



県、市町の防災情報メールや防災アプリなどを登録していない理由（問5-2）

ア 有識者による分析や示唆など

携帯電話・スマートフォン等の保有率から考えてみても，防災情報メールの登録割合は，低いと言わざるを得ない。

登録方法を分かりやすく伝える工夫をしてはどうか。

「防災何でも相談室」，「登録相談電話」といったような窓口を設けて，登録に関する相談受付や，登録方法が分からない方などへの登録支援を行ってはどうか。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

子育てサークルや地域の高齢者サロン等で行う防災教室における，防災情報メールの登録方法の周知と登録の支援に取り組む。

- 引き続き，報道機関と連携し，テレビ・ラジオ等の媒体や「みんなで減災推進大使」等を活用して，防災情報メールの効能や登録方法などについて，分かりやすい説明を行う。

また，通信事業者には，引き続き協力いただき，携帯電話の新規契約や更新時を捉えた登録の促進に取り組む。

- ポータルサイト「はじめの一步」内に，防災に関する質問を受け付けるコーナーを追加し，登録に関する電話での相談受付や登録支援を行うこととする。

(3)【行動目標】 自ら判断して適切に「**行動する**」及び  
防災教室や防災訓練などで「**学ぶ**」

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果							H30 (目標)	H32 (目標)
	H26	H27 (10月)	H28 (8月)	H29 (2月)	H30 (2月)	H31 (2月)	R2 (2月)		
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	35.1%	30.7%	32.9%	36.8%	39.4%	29.3%	<b>41.5%</b>	57.0%	60.0%

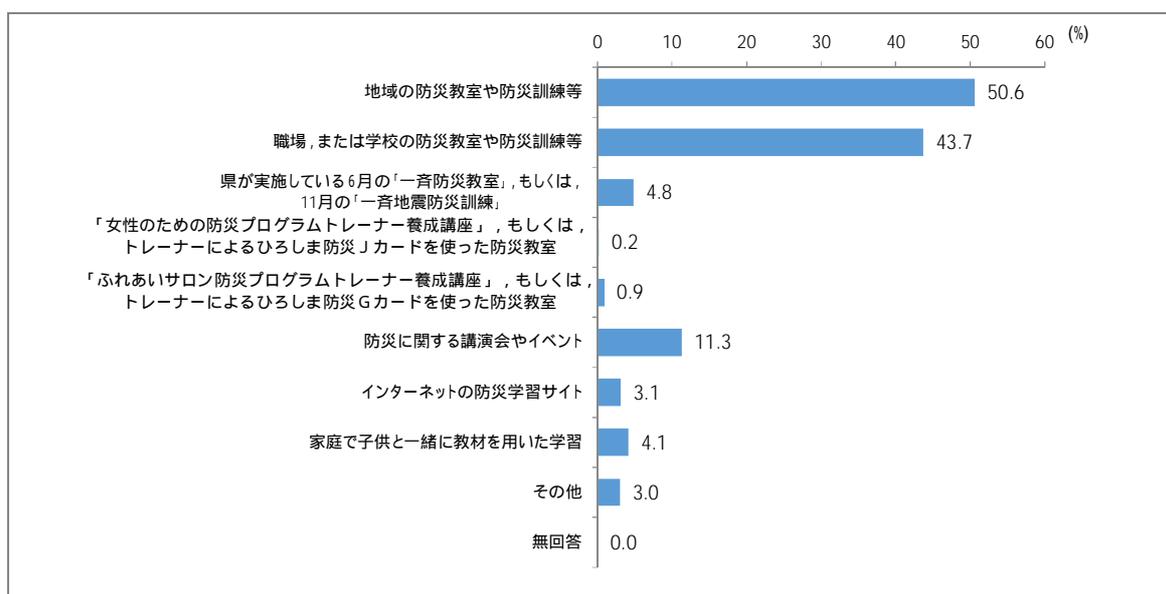
《防災教室・防災訓練へ参加した人の割合の内訳》

(単位：%)

		全体	参加した	参加していない	無回答
全体		100.0	41.5	57.1	1.3
年代別	20歳未満	100.0	73.5	26.5	-
	20代	100.0	38.5	61.4	0.1
	30代	100.0	44.7	54.7	0.6
	40代	100.0	38.9	60.5	0.6
	50代	100.0	39.0	60.3	0.7
	60代	100.0	40.4	58.4	1.2
	70代	100.0	45.2	51.4	3.4
	80歳以上	100.0	31.0	64.3	4.6
性別	男性	100.0	43.6	55.1	1.4
	女性	100.0	39.8	58.9	1.3
生活形態別	企業・団体勤務	100.0	43.8	55.3	0.9
	自営業	100.0	33.9	65.0	1.0
	農林漁業	100.0	52.3	47.7	-
	家事や育児で在宅	100.0	25.4	74.5	0.1
	学生	100.0	52.3	47.5	0.2
	定年退職などで在宅	100.0	46.1	51.1	2.7
	その他	100.0	38.6	59.0	2.4

防災教室・防災訓練への参加割合は、「家事や育児で在宅」で「25.4%」と最も低くなっている。

防災教室・訓練に参加しなかった理由は、「仕事や家事,育児で忙しかったから」が「39.8%」と最も多い。

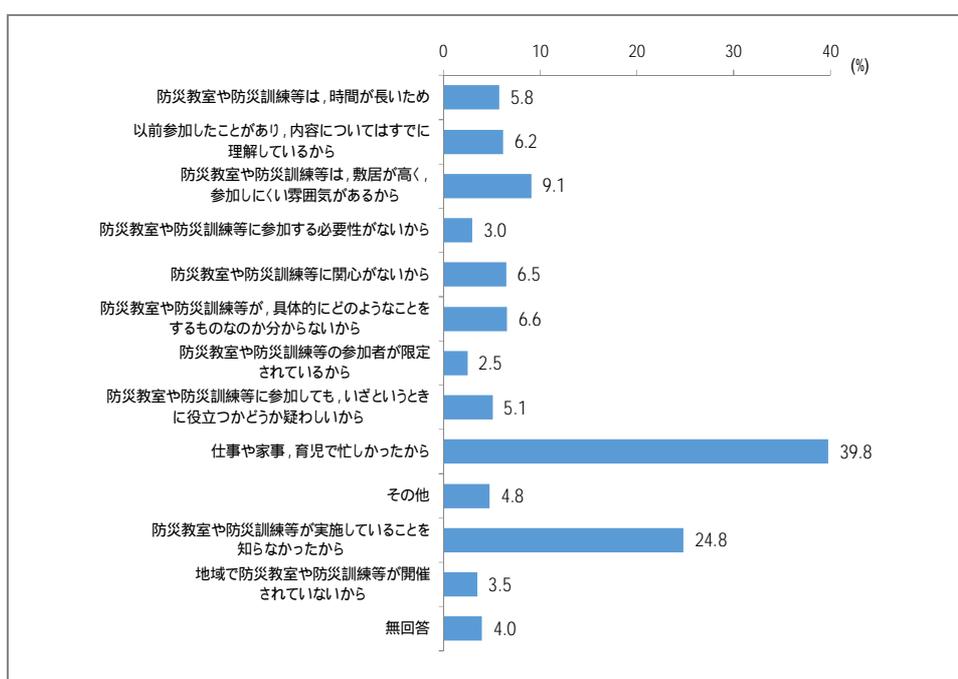


過去1年間に参加した防災教室・防災訓練(問8)

参加しなかった理由で、「仕事や家事，育児で忙しかったから」は「企業・団体勤務」で「50.3%」，「家事・在宅」で「48.5%」，「防災教室や防災訓練等が実施されていることを知らなかったから」は「学生」で「48.5%」と他の生活形態に比べ高くなっている。

「以前参加したことがあり，内容についてはすでに理解しているから」は，「定年退職などで在宅」で「14.4%」と他の生活形態に比べ高くなっている。

なお，防災教室等に参加しなかった人で，事前にわかっていたら『参加したい』（「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた割合）と答えた人が「61.8%」，『参加したくない』（「参加したくない」と「どちらかといえば参加したくない」を合わせた割合）が「36.3%」となっている。

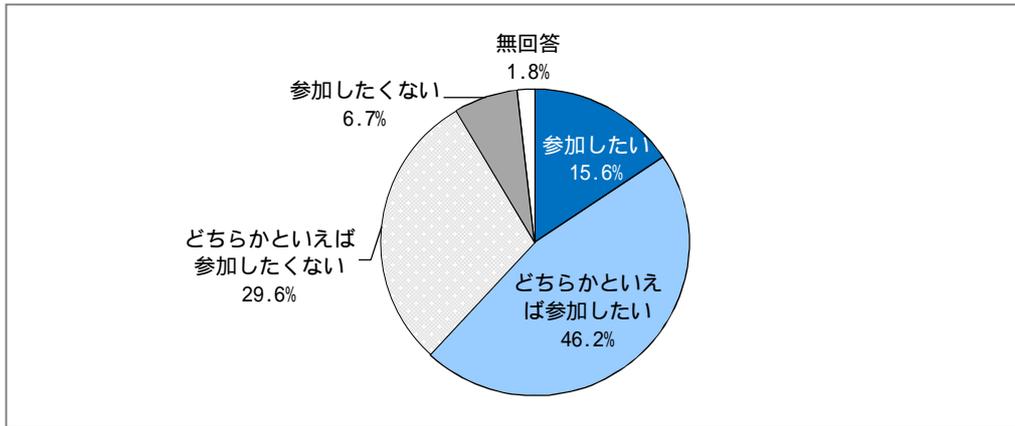


防災教室等に参加しなかった理由（問 8-1）

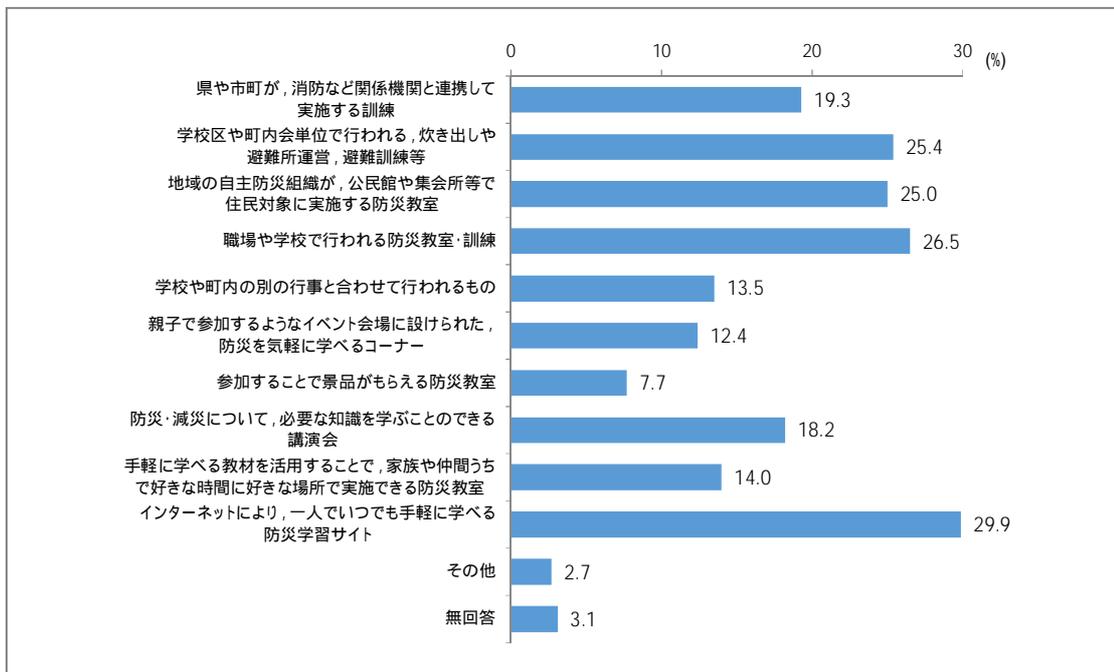
参加しやすい防災教室等の形態として、「インターネットにより，一人でいつでも手軽に学べる防災学習サイト」が「29.9%」と最も高く，次いで「職場や学校で行われる防災教室・訓練」の「26.5%」となっている。

年代別では，70代以上は「地域の自主防災組織が，公民館や集会所等で住民対象に実施する防災教室」の割合が高く，それぞれ70代「43.4%」，80歳以上「46.7%」となっている。20代以下では「職場や学校で行われる防災教室・訓練」が高く，それぞれ，20歳未満「51.9%」，20代「53.9%」となっている。

また，生活形態別では，「農林漁業」は，「地域の自主防災組織が，公民館や集会所等で住民対象に実施する防災教室」が「51.7%」，「学生」にあっては，「職場や学校で行われる防災教室・訓練」が「54.7%」，「インターネットにより，一人でいつでも手軽に学べる防災学習サイト」が「45.0%」と高くなっている。



防災教室や防災訓練が事前に分かっていたら参加したいか(問9)



参加しやすい防災教室等の形態(問10)

## ア 有識者による分析や示唆など

防災教室等への参加割合が伸びないのは、一度参加すれば、もう参加しなくても良いと考えている人が多いからではないか。

防災教室等に参加しなかった理由として、「仕事や家事、育児で忙しかったから」が依然として多いことから、あまり時間を費やすことなくできるような防災教室プログラムの普及に努める必要がある。

なお、防災教室を開催するにあたっては、その対象者にあわせた、内容や時間帯などについて一層考慮する必要がある。

また、今般のコロナ禍にあっては、「3密」を避ける必要があることから、「一人でいつでも手軽に学べる防災学習サイト」の一層の充実を図る必要がある。

なお、防災教室を開催するにあたっては、感染防止対策を講じた実施方法等について、市町担当者や自主防災組織の役員等に十分周知しておく必要がある。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

あらためて、防災教室・訓練に繰り返し参加することの必要性について、報道機関と連携した周知などに努める。

地域で行われる防災教室等への県民の一層の参加を促進するとともに、高齢者サロン等多世代の住民が集まる場において、気軽に取り組めるような防災教室の普及に取り組む。

なお、防災教室の開催にあたっては、効果的なものとなるよう、対象者にあわせた内容を検討した上で、より多くの方が集まりやすい時間帯等に行うこととする。

市町や自主防災組織等に対しては、感染症予防を踏まえた防災行動等についての啓発チラシ等の配布に加え、防災教室を開催するにあたっての必要な対応策について、引き続き周知を行う。

- 引き続き、企業従業員に対する取組として、商工会や商工会議所などの団体と連携し、中小企業における、防災教室や訓練の実施を働きかける。

また、商工労働局と連携し、同局が主催するフォーラムや、企業訪問の機会を捉え、中小企業における、防災教室や訓練の実施を働きかける。

パソコンやスマートフォンなどで作成可能な、デジタル版「ひろしまマイ・タイムライン」の一層の周知を図り、災害が発生する危険が生じた際、いつのタイミングで何をするかや、どこに避難するか、また、いつ避難するかなどの自らの防災計画について、幅広い層の県民に作成を促す。

(4)【行動目標】 非常持出品を準備するなど災害に「備える」

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果							H30 (目標)	H32 (目標)
	H26	H27 (10月)	H28 (8月)	H29 (2月)	H30 (2月)	H31 (2月)	R2 (2月)		
非常持出品を用意している人の割合	52.8%	51.5%	65.9%	67.6%	67.4%	66.5%	<b>69.1%</b>	-	-
上記を用意し、かつ3日以上 の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	-	-	-	46.7%	50.5%	48.1%	<b>52.3%</b>	58.4%	70.0%
家具等の転倒防止を行っている人の割合	-	-	-	43.9%	56.6%	44.7%	<b>49.0%</b>	55.0%	70.0%

(非常持出品を用意している人の割合の内訳)

(単位：%)

		全体	用意して いる	用意して いない	無回答
全 体		100.0	69.1	29.7	1.1
年 代 別	20歳未満	100.0	44.7	55.3	-
	20代	100.0	56.6	43.4	-
	30代	100.0	59.3	39.4	1.2
	40代	100.0	68.8	30.4	0.7
	50代	100.0	66.1	33.7	0.2
	60代	100.0	74.8	24.4	0.9
	70代	100.0	75.8	21.7	2.5
	80歳以上	100.0	64.4	30.9	4.6
性 別	男性	100.0	68.7	30.4	0.9
	女性	100.0	69.5	29.2	1.3
生 活 形 態 別	企業・団体勤務	100.0	66.5	32.8	0.8
	自営業	100.0	68.6	30.2	1.2
	農林漁業	100.0	80.0	20.0	-
	家事や育児で在宅	100.0	71.4	27.9	0.7
	学生	100.0	57.9	42.1	-
	定年退職などで在宅	100.0	77.3	21.0	1.7
	その他	100.0	68.1	29.2	2.7

(非常持出品を用意し、3日分以上の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合の内訳)

(単位：%)

		全体	用意して いる	用意して いない	無回答
全 体		100.0	52.3	47.7	-
年 代 別	20歳未満	100.0	35.9	64.1	-
	20代	100.0	41.9	58.1	-
	30代	100.0	44.0	56.0	-
	40代	100.0	52.3	47.7	-
	50代	100.0	51.9	48.1	-
	60代	100.0	54.0	46.0	-
	70代	100.0	59.1	40.9	-
	80歳以上	100.0	40.8	59.2	-
性 別	男性	100.0	49.6	50.4	-
	女性	100.0	54.8	45.2	-
生 活 形 態 別	企業・団体勤務	100.0	49.8	50.2	-
	自営業	100.0	48.6	51.4	-
	農林漁業	100.0	70.0	30.0	-
	家事や育児で在宅	100.0	55.1	44.9	-
	学生	100.0	48.0	52.0	-
	定年退職などで在宅	100.0	59.2	40.8	-
	その他	100.0	56.3	43.7	-

《家具等の転倒防止の対策を行っている人の割合の内訳》

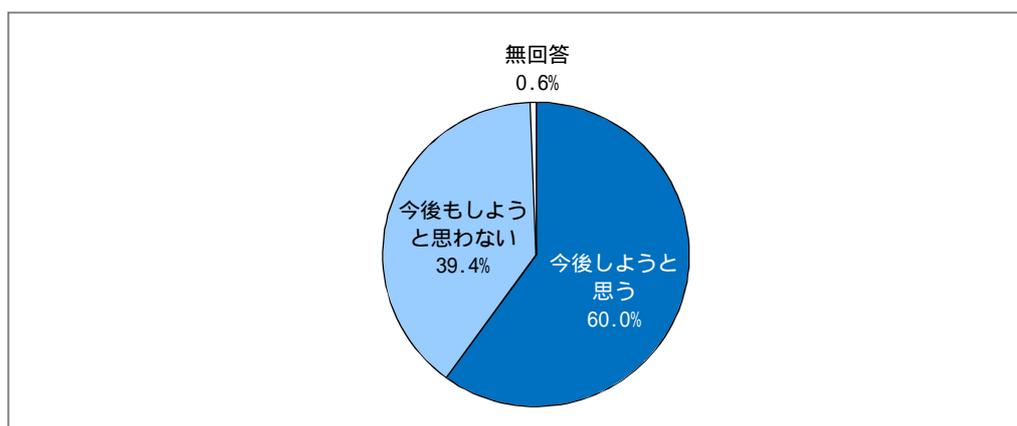
(単位:%)

		全体	対策して いる	対策して いない	無回答
全 体		100.0	49.0	50.7	0.3
年 代 別	20歳未満	100.0	30.8	69.2	-
	20代	100.0	47.4	52.6	-
	30代	100.0	39.1	60.9	-
	40代	100.0	51.3	47.8	0.9
	50代	100.0	48.8	51.2	-
	60代	100.0	48.5	51.3	0.2
	70代	100.0	55.3	44.3	0.4
	80歳以上	100.0	49.8	50.2	-
性 別	男性	100.0	48.1	51.4	0.4
	女性	100.0	49.9	49.9	0.1
生 活 形 態 別	企業・団体勤務	100.0	46.8	52.9	0.4
	自営業	100.0	48.9	51.1	-
	農林漁業	100.0	49.1	50.9	-
	家事や育児で在宅	100.0	50.8	49.2	-
	学生	100.0	45.8	54.2	-
	定年退職などで在宅	100.0	58.5	41.0	0.4
	その他	100.0	40.4	59.6	-

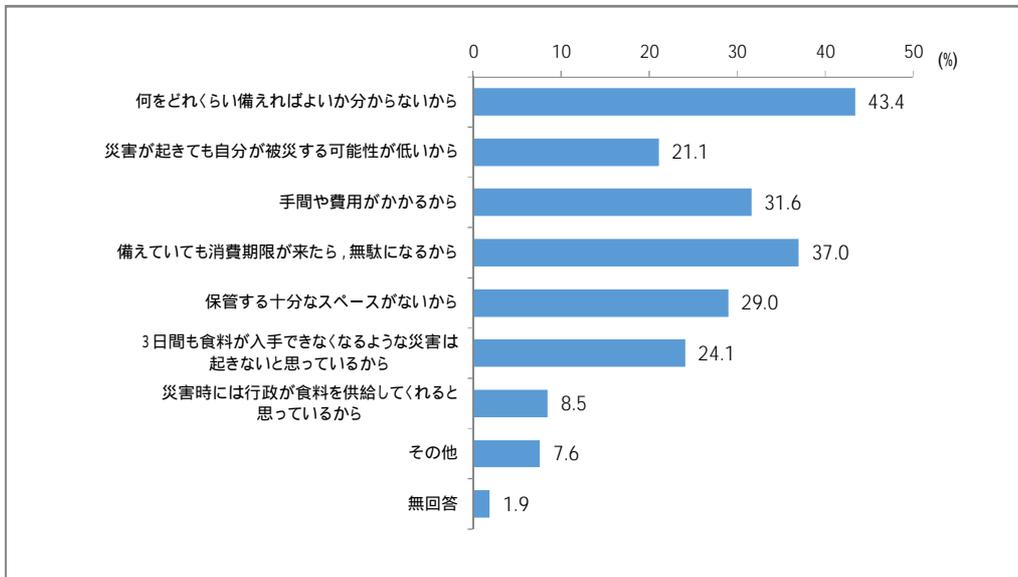
非常持出品を用意している人の割合について、学生や単身者の多い「20歳未満(44.7%)」を除くすべての年代で半数を超え高くなっており、男女の差異にも大きな差はみられない。

非常持出品を用意し、かつ3日以上以上の食料及び飲料水を備蓄している人の割合は、年代別では70代で約6割(59.1%)、生活形態別では「農林漁業」で7割(70.0%)で高くなっている。

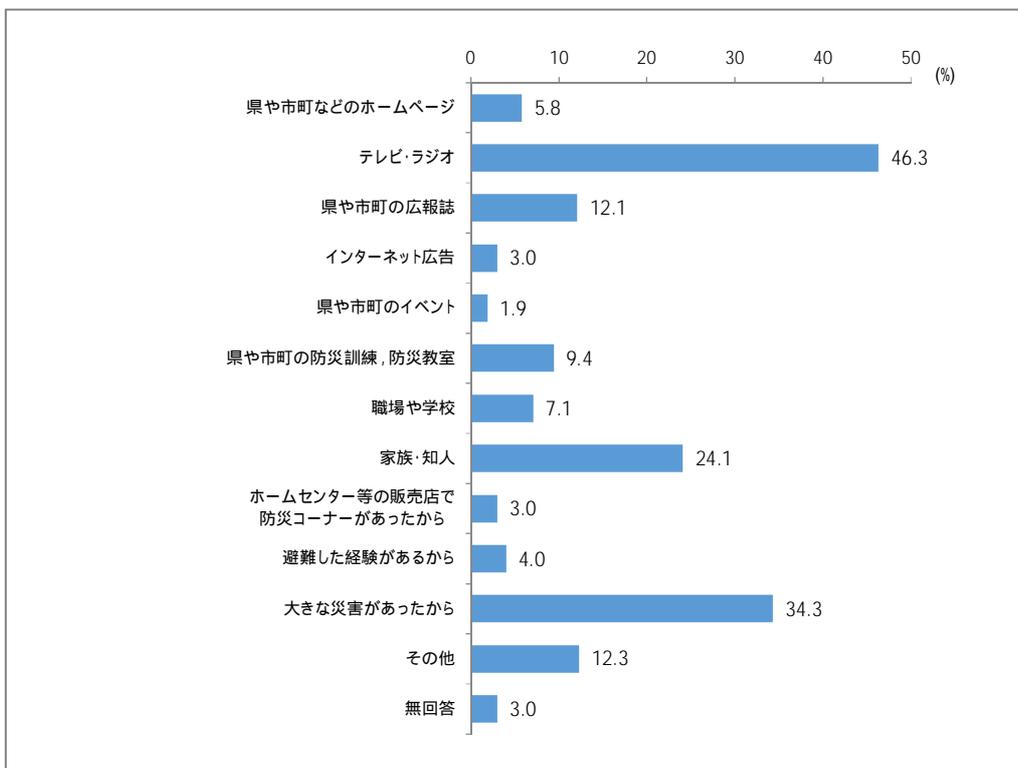
家具等の転倒防止を行っていない人の割合は、「20歳未満(69.2%)」、「30代(60.9%)」で6割を超え高くなっている。



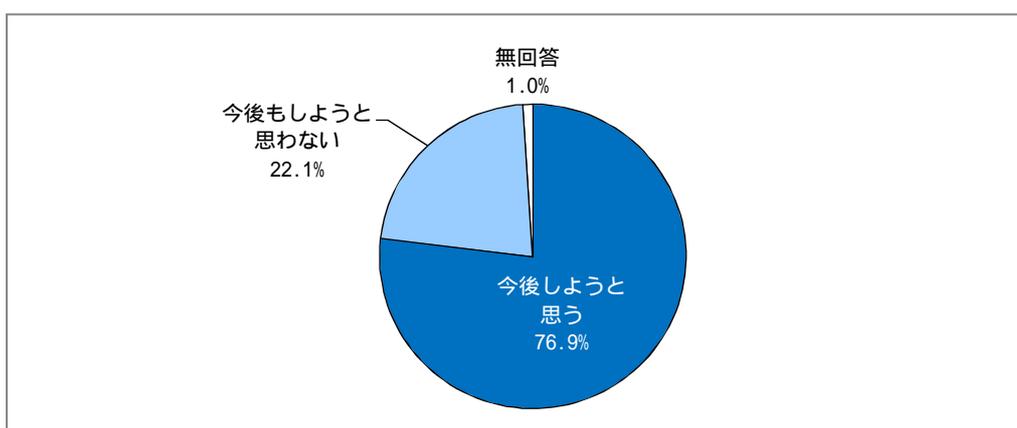
今後、備蓄の準備を行う意向(問6-1)



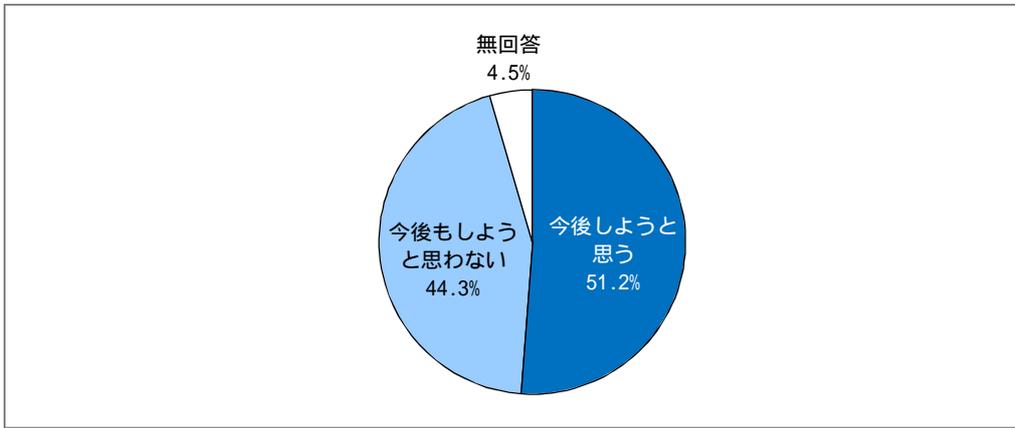
今後、備蓄を行わない理由（問 6-2）



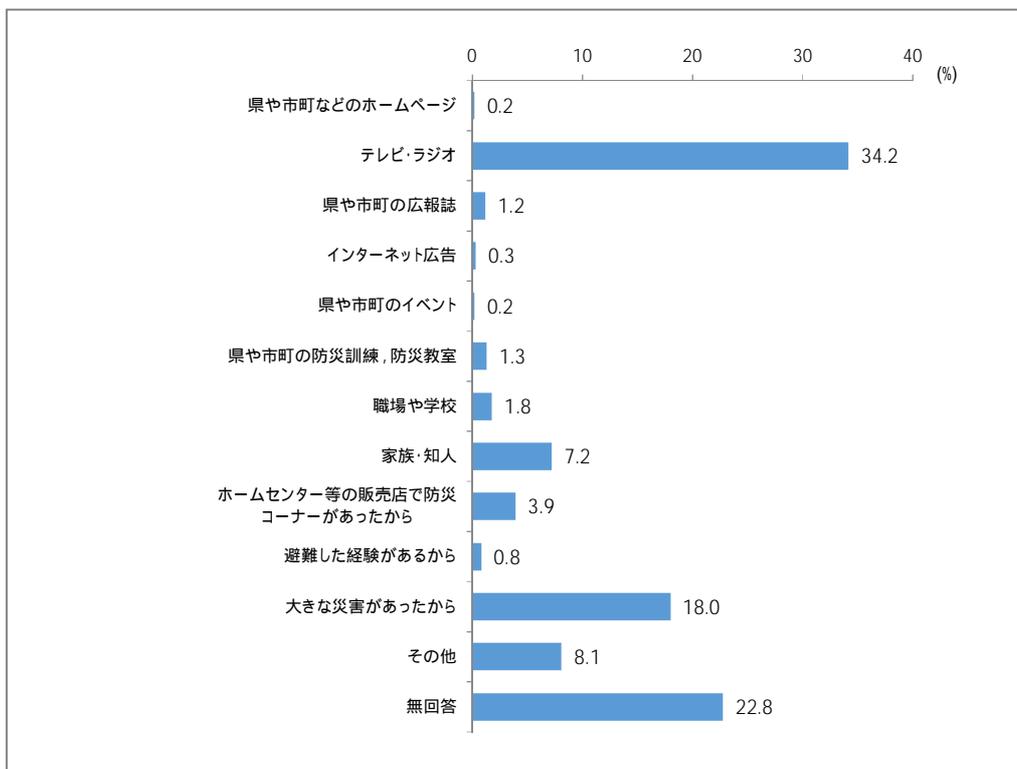
備蓄を行ったきっかけ(問 6-3)



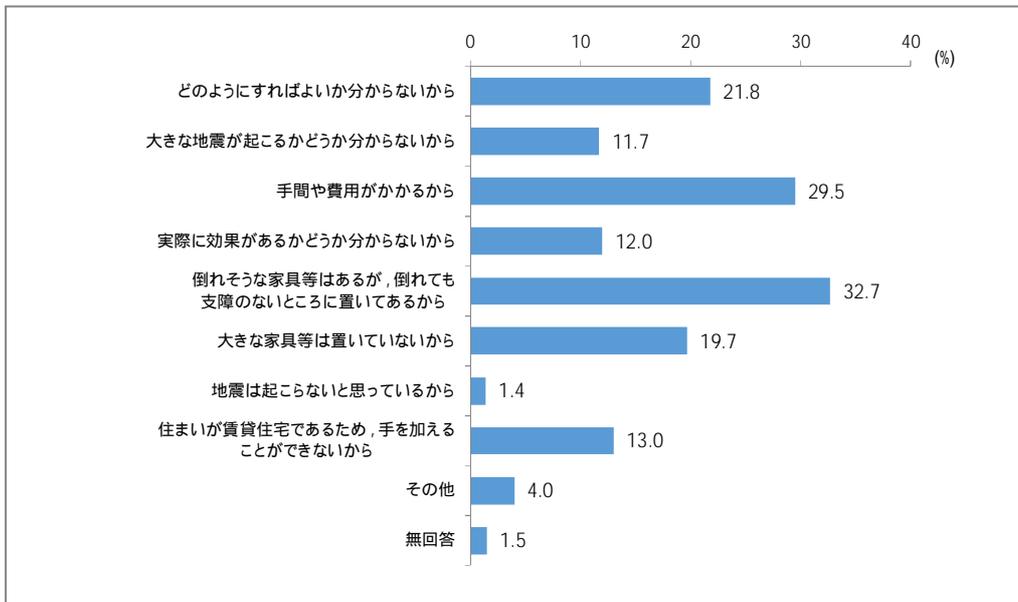
今後、非常用持出品の準備を行う意向(問 7-1)



今後、家具などの転倒防止を行う意向（問 11-2）



家具などの転倒の防止を行ったきっかけ（問 11-3）



家具などの転倒防止を行っていない理由（問 11-1）

## ア 有識者による分析や示唆など

備蓄を行わない理由として、「何をどれくらい備えれば良いか分からないから」が最も多いことからすると「ローリングストック法」の推奨や、安価な備蓄品の紹介などを積極的に行うことで、多くの人に備蓄を促せる余地はあるものと考えられる。

備蓄を行うきっかけとして、テレビ・ラジオが最も多いことから考えると、これらを活用した広報は有効であるものと考えられる。

備蓄しない理由として、「大きな災害は起きないと思っている」や「起きても自分は被災する可能性が低い」が、それぞれ2割を超えていることが懸念される。

自身は被災しなくても、ひとたび災害が起これば、食料や飲料水が入手困難になることがあり得ることなども啓発する必要がある。

家具の転倒防止対策を行っている人の割合の伸び率が遅いのは、どちらかというところ、近年頻発している豪雨災害に県民の意識が向いており、地震への意識が低くなっているからであろうと推測される。

また、家具の転倒防止対策を行っていない人のうち、「今後もしようと思わない」という人が約4割もいることも懸念される。

地震対策にかかるキャンペーンを実施し、家具の転倒が生じた際に想定される様々な被害や、地震で倒れた家具等が扉を塞ぐことにより、避難できなくなるケースがあるなど、家具の下敷きになる以外の危険性が生じることなども啓発する必要がある。

さらに、賃貸住宅において、壁や家具を傷つけることなく簡単にできる、転倒防止対策などについても啓発する必要がある。

## イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 報道機関と連携し，テレビ・ラジオ等の媒体や「みんなで減災 推進大使」を活用した「ローリングストック法」の推奨など，備え方の工夫について，一層の周知に取り組む。

引き続き，「備えるフェア」を開催し，小売店舗やホームセンター等の協力を得て，非常持出品や備蓄品の販売促進や，来店者に対する備えの必要性などの啓発を行う。

- 「津波防災の日」，過去に大きな地震が起こった日の前後など，県民の地震に対する意識が高まる時期を捉え，地震により想定される被害や，地震への備えに必要な対策，備蓄品などについて，あらためて集中的な広報活動を行う。

「備えるフェア」等において，家具販売店と連携した，固定金具等の紹介と取り付けの促進に加え，ハウスメーカー等とも連携し，家屋の耐震化と併せ，家具転倒防止対策の普及促進に取り組む。

災害の発生に備え，日頃から行っておくべきことを家族で話し合った上，自らの防災行動計画を作成する「ひろしまマイ・タイムライン」に取り組む。

# 調查票

## 防災・減災に関するアンケートへのご協力をお願い

日頃から県行政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

広島県では、平成26年8月の土砂災害の教訓を踏まえ、県民の皆様お一人お一人に、いつ、どこで起きるかも分からない自然災害から、ご自分の命を守るための行動をとっていただくことができるよう、平成27年4月から、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を展開しています。

この運動の推進にあたり、防災・減災に関する県民の皆様の意識や行動内容及び情報の入手手段などの実態を把握して、今後の防災・減災対策に活かすため、概ね年に一度、防災・減災に関するアンケートを行うこととしております。

このアンケートは県内にお住まいの18歳以上の方5,000人を選挙人名簿から無作為に選んで行うものです。調査で得た結果はすべて統計的に処理をし、調査以外の目的では使用いたしませんので、皆様にご迷惑がかかることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、自然災害による死者ゼロの実現をめざし、この取組を今後、さらに効果的に進めていくため、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和2年2月

広島県危機管理監減災対策推進担当

### ご記入にあたってのお願い

- 質問は、全部で約70問あります。ご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。  
ご本人の記入が難しい場合は、ご本人の意向を確認いただき、ご家族の方等がご記入ください。
- 調査票や封筒にあなたのご住所、お名前を記入する必要はありません。
- 全体で15分程度かかります。
- ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をしてください。選択肢で「その他」を選択した場合は（ ）内に内容を具体的にご記入ください。
- ご回答は、設問ごとに（○は1つ）（○はいくつでも）など指定されていますので、ご注意ください。
- 設問によって回答していただく方が限られる場合があります。説明文や矢印に従ってお進みください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）で**3月6日（金）**までに投函してください。返送先は調査の実施・集計を委託している株式会社サーベイリサーチセンターになります。

広島県危機管理監減災対策推進担当

住所：〒730-8511 広島市中区基町10番52号

電話：082-513-2781

FAX：082-227-2122

Eメール：gensai@pref.hiroshima.jp

## I あなたの災害に対する意識とご経験についてお尋ねします

問1 あなたやあなたのご家族は、これまで、災害によって何らかの被害を受けたことがありますか。(○は1つ)

- 1 被害を受けたことがない
- 2 それほど大きくはないが、被害を受けたことがある
- 3 比較的大きな被害を受けたことがある
- 4 非常に大きな被害を受けたことがある

問2 あなたは、これまで(平成30年7月豪雨災害も含む)、市町から避難情報が発令された時、土砂崩れや浸水が始まる前に避難したことがありますか。(○は1つ)

- 1 避難場所へ避難したことがある
- 2 避難場所や自宅以外の安全な場所(知人や別居の親族宅など)へ避難したことがある
- 3 自宅の中の安全な場所へ避難したことがある
- 4 避難したことがない

【問2で「1 避難場所へ避難した」と回答した方へお尋ねします。】

問2-1 避難した避難場所をお答えください。(○はいくつでも)

- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| 1 学校      | 5 コミュニティセンター    |
| 2 公民館・集会所 | 6 文化会館・スポーツセンター |
| 3 福祉施設    | 7 その他( )        |
| 4 役所・役場   |                 |

問3 平成30年7月豪雨災害時のことをお尋ねします。

あなたは、豪雨の時、土砂崩れや浸水が始まる前に避難しましたか。(○は1つ)

- 1 避難場所へ避難した
- 2 避難場所や自宅以外の安全な場所(知人や別居の親族宅など)へ避難した
- 3 自宅の中の安全な場所へ避難した
- 4 避難しなかった
- 5 県内にはいなかった

【問3で「1 避難場所へ避難した」と回答した方へお尋ねします。】

問3-1 避難した避難場所をお答えください。(○はいくつでも)

- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| 1 学校      | 5 コミュニティセンター    |
| 2 公民館・集会所 | 6 文化会館・スポーツセンター |
| 3 福祉施設    | 7 その他( )        |
| 4 役所・役場   |                 |

問4 平成30年7月豪雨以降から現在までのことについてお尋ねします。

あなたは、7月豪雨災害以降、台風接近前や浸水が始まる前に避難したことがありますか。(○は1つ)

- 1 避難場所へ避難したことがある
- 2 避難場所や自宅以外の安全な場所(知人や別居の親族宅など)へ避難したことがある
- 3 自宅の中の安全な場所へ避難したことがある
- 4 避難したことがない

【問4で「1 避難場所へ避難したことがある」と回答した方へお尋ねします。】

問4-1 避難した避難場所をお答えください。(○はいくつでも)

- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| 1 学校      | 5 コミュニティセンター    |
| 2 公民館・集会所 | 6 文化会館・スポーツセンター |
| 3 福祉施設    | 7 その他( )        |
| 4 役所・役場   |                 |

【全員にお尋ねします。】

問5 避難場所のイメージをどう持たれていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

- 避難場所：  
 ・災害の危険が差し迫った時など、緊急に避難する必要のある場合の避難先  
 ・災害が起こって自宅に戻れない方などが、一時的に生活する場所は「避難所」

避難場所のイメージ	あてはまる	あやてはまる	なああいてはまり	なあいてはまら
①トイレが不便	1	2	3	4
②プライバシーがない	1	2	3	4
③風呂に入れない	1	2	3	4
④エアコンが効かない	1	2	3	4
⑤自由に使える電源がない	1	2	3	4
⑥飲食物が手に入らない	1	2	3	4
⑦要配慮者(子どもや高齢者等)が居づらい	1	2	3	4
⑧ペットを連れていけない	1	2	3	4
⑨災害情報が入らない	1	2	3	4
⑩不衛生である	1	2	3	4

問6 あなたは、市町が指定している避難場所での設備の有無などについて、知っていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

	知っている	知らないが 知りたい	知らないし 必要ない
①駐車場の有無や駐車可能な台数	1	2	3
②洋式トイレの有無や数	1	2	3
③エアコン設置の有無	1	2	3
④水や食料、シートや毛布などの備蓄品の種類や量	1	2	3
⑤テレビやラジオの有無	1	2	3
⑥ペットの受け入れの可否	1	2	3
⑦風呂やシャワー設備の有無	1	2	3
⑧避難場所までの経路の安全性 (途中に川や土砂災害の危険のある地域がないか)	1	2	3
⑨非常用電源の有無	1	2	3
⑩プライバシーの確保	1	2	3

問7 あなたは普段、家族や地域の人々と、防災に関する話をすることがありますか。

(○は1つ)

家族と	地域の人々と
1 まったくない	1 まったくない
2 たまに話をする	2 たまに話をする
3 ときどき話をする	3 ときどき話をする
4 しょっちゅう話をする	4 しょっちゅう話をする

問8 あなたの災害に対する関心(我が身に置き換えてみるかどうか)や意識は、どの程度ありますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

	あてはまる	ま あ あ て は	は あ ま ら な い あ て	な あ て は ま ら
①広島県内で災害が発生した場合に関心を寄せる	1	2	3	4
②他の都道府県で災害が発生した場合に関心を寄せる	1	2	3	4
③全国(広島県内を含む)で発生した過去の災害を報道で見た場合に関心を寄せる	1	2	3	4
④災害が起きたらその時はその時だと思っている	1	2	3	4
⑤災害は起きて自分は大丈夫だと思っている	1	2	3	4



- 問 11 あなたのお住まいの場所では、どのような災害の危険性が想定されているか知っていますか。(○は1つ)
- 1 知っている → 問 12~14 へ
  - 2 知りたいが知らない → 問 15
  - 3 知りたくない → 問 15

【問 11 で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

- 問 12 どのような災害による危険性を認知されましたか。(○はいくつでも)
- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| 1 土砂災害    | 4 津波による浸水       |
| 2 洪水による浸水 | 5 地震に伴う家屋等の倒壊など |
| 3 高潮による浸水 | 6 危険性はない        |

【問 11 で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

- 問 13 あなたのお住まいの地域の災害の危険性の有無をどのようなきっかけで知りましたか。(○はいくつでも)
- 1 自分でパソコンを使ったり、人に聞いたりして調べた
  - 2 家族に聞いた(話し合った)
  - 3 地域の方(個人、自主防災組織、消防団)に教えてもらった
  - 4 地域の住民ではない友人や知人に教えてもらった
  - 5 市役所(町役場)の人に教えてもらった
  - 6 職場で教えてもらった
  - 7 学校で教えてもらった
  - 8 自ら災害を経験した
  - 9 家族(親戚)・知人が災害を経験した
  - 10 その他( )

【問 11 で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

- 問 14 災害の危険性の有無を確認した方法をお答えください。(○はいくつでも)
- 1 県の防災Web や市町のホームページなどで公開されているハザードマップ(※)
  - 2 市町が紙に印刷して配布したハザードマップ(※)
  - 3 県の防災Web や市町のホームページなどで公開している震度分布図、揺れやすさマップ、土砂災害危険箇所図、土砂災害警戒区域図・特別警戒区域図、洪水・高潮・津波浸水想定区域図等
  - 4 地域住民が独自に作成した防災マップ
  - 5 実際に地域を歩いてみた
  - 6 その他( )

※ ハザードマップ：自然災害(地震・津波・洪水・土砂災害等)による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被害想定区域や避難場所などを表示した市町が作成する地図

**【全員にお尋ねします。】**

問 15 災害の危険性の有無を確認するに当たって、困っていることをお答えください。  
(〇はいくつでも)

- 1 どうやって確認するかわからない
- 2 忙しくて確認する時間がない
- 3 調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい
- 4 その他 ( )
- 5 危険性を確認する必要性を感じない
- 6 困っていることはない

問 16 令和元年6月から、下記のとおり、警戒レベルを用いた避難情報等が発令・発表されています。あなたは、このことを知っていますか。(〇は1つ)

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。	災害発生情報
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難をしましょう。 避難先までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所へ避難や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急)
警戒レベル3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・ 高齢者等 避難開始
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	警報級の可能性

- 1 よく知っている
- 2 知っている
- 3 あまり知らない
- 4 まったく知らない

問 17 令和元年6月から、警戒レベルを用いた避難情報等が発令・発表されていますが、あなたは、事前に避難のタイミングを決めていますか。(〇は1つ)

- 1 警戒レベル3(避難準備・高齢者等避難開始)、警戒レベル4(避難勧告・避難指示(緊急))の避難情報で避難することを決めている
- 2 大雨・洪水注意報、大雨・洪水警報などの気象情報で避難することを決めている
- 3 水位などの周辺の状況で避難することを決めている
- 4 家族と話しあって決めている
- 5 その他 ( )
- 6 避難するタイミングを決めていない

問 18 令和元年6月から広島県や各マスコミでは、避難の「あなたが避難することが、みんなの命を救うことにつながります」というメッセージを受けて避難を呼びかけていますが、あなたは、このことを知ったり、聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

- 1 知っている
- 2 知らない

## Ⅱ あなたの災害に対する備えや災害時の行動についてお尋ねします

問 1 県では、平成27年4月から、「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動をご存じですか。下記の5つの行動目標を確認してお答えください。(○は1つ)

- 1 行動目標を含めて、知っていた
- 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった
- 3 まったく知らなかった

### ※5つの行動目標

#### 【災害から命を守るための行動】

1 「知る」

身の周りの災害危険箇所や災害の種類に応じた避難場所・経路の確認

2 「察知する」

危険を知らせる気象情報・避難情報を確認する。

3 「行動する」

災害から命を守るために自ら判断して適切に行動する。

#### 【普段から災害に備えるための行動】

4 「学ぶ」

学校、職場、地域で行われる防災教室・防災訓練に参加する。

5 「備える」

非常持出品の準備。建物の耐震化や家具の転倒防止対策を進める。

問2 あなたは、お住まいの地域で発生するおそれのある災害の危険性に応じた避難場所や避難経路の確認を行っていますか。(○は1つ)

- 1 まったくしていない → 問2-1へ
  - 2 少しはしている
  - 3 かなりしている
  - 4 十分にしている
- } 問2-2へ

【問2で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問2-1 今後、「避難場所や避難経路の確認」をしようと思いますか。(○は1つ)

- 1 今後しようと思う
- 2 今後もしようと思わない

【問2で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問2-2 避難場所、避難経路はどのような方法で確認しましたか。(○はいくつでも)

- 1 市町が配布したハザードマップ
- 2 県のホームページや国や市町などのホームページ
- 3 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 4 地域の方(個人、自主防災組織、消防団など)から教えてもらった
- 5 市役所(町役場)の人から聞いた
- 6 防災教室や防災訓練
- 7 その他( )

【全員にお尋ねします。】

問2-3 あなたは、お住まいの地域で発生するおそれのある災害の危険性に応じて避難場所や避難経路の確認を複数か所を行っていますか。(○は1つ)

なお、避難場所は、市町が指定している避難場所でなくとも、安全な場所(知人や別居の親族宅・商業施設など)の避難先でも構いません。

- 1 複数か所している
- 2 1ヶ所している
- 3 していない

【全員にお尋ねします。】

問3 災害が予見される場合に、気象情報や、大雨警報、避難情報などの防災情報をどのような方法で入手していますか。(〇はいくつでも)

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 1 テレビ          | 7 スマートフォンなどに登録したアプリ   |
| 2 テレビのデータ放送    | 8 ツイッターやフェイスブックなどのSNS |
| 3 ラジオ          | 9 町内の人や消防団等からの連絡      |
| 4 インターネット      | 10 その他( )             |
| 5 県や市町の防災情報メール | 11 入手していない            |
| 6 市町の防災無線      |                       |

問4 あなたは、携帯電話・スマートフォンもしくはタブレット端末を持っていますか。(〇は1つ)

- 1 スマートフォンもしくはタブレット端末を持っている
- 2 携帯電話を持っており、メール機能も使用している
- 3 携帯電話を持っているが、メール機能は、使用していない
- 4 いずれも持っていない

問5 あなたは、県又は市町の防災情報メールや防災アプリなどの登録を行っていますか。登録していない方は今後の登録意向をお答えください。(〇はいくつでも)

- |                        |   |       |
|------------------------|---|-------|
| 1 県や市町の防災メール           | } | 問5-1へ |
| 2 Yahoo!防災速報           |   |       |
| 3 NHK ニュース・防災アプリ       |   |       |
| 4 goo 防災アプリ            |   |       |
| 5 全国避難所ガイド             |   |       |
| 6 その他( )               |   |       |
| 7 登録していないが、今後しようと思う    | } | 問5-2へ |
| 8 登録していないし、今後もしようと思わない |   |       |

【問5で「1～6」と回答した方にお尋ねします。】

問5-1 防災情報メール、防災アプリなどを登録した理由、きっかけは何ですか。

(〇は1つ)

- |                 |                             |
|-----------------|-----------------------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 6 県や市町の防災訓練、防災教室            |
| 2 テレビ・ラジオ       | 7 職場や学校                     |
| 3 県や市町の広報誌      | 8 家族・知人                     |
| 4 インターネット広告     | 9 携帯電話・スマートフォン、タブレット端末等の販売店 |
| 5 県や市町のイベント     | 10 その他( )                   |

【問5で「7 登録していないが、今後しようと思う」「8 登録していないし、今後しようと思わない」と回答した方にお尋ねします。】

問5-2 登録していない理由は何ですか。(〇は3つまで)

- |                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| 1 登録方法がわからないから             | 4 防災以外に役立つ情報が少ないから |
| 2 登録方法が複雑で面倒だから            | 5 通信料がかかるから        |
| 3 住んでいる場所は安全だから登録する必要がないから | 6 その他 ( )          |

【全員にお尋ねします。】

問6 あなたは、現在、3日以上以上の食料や飲料水の備蓄を行っていますか。(〇は1つ)

- |             |         |
|-------------|---------|
| 1 まったくしていない | → 問6-1へ |
| 2 少しはしている   | } 問6-3へ |
| 3 かなりしている   |         |
| 4 十分にしている   |         |

【問6で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問6-1 今後、「3日以上以上の食料や飲料水の備蓄」を行おうと思いますか。(〇は1つ)

- |            |       |               |         |
|------------|-------|---------------|---------|
| 1 今後しようと思う | → 問7へ | 2 今後もしようと思わない | → 問6-2へ |
|------------|-------|---------------|---------|

【問6-1で「2 今後もしようと思わない」と回答した方にお尋ねします。】

問6-2 今後、備蓄をしようと思わないのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

- 1 何をどれくらい備えればよいか分からないから
- 2 災害が起きても自分が被災する可能性が低いから
- 3 手間や費用がかかるから
- 4 備えていても消費期限が来たら、無駄になるから
- 5 保管する十分なスペースがないから
- 6 3日間も食料が入手できなくなるような災害は起きないと思っているから
- 7 災害時には行政が食料を供給してくれると思っているから
- 8 その他 ( )

【問6で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問6-3 「3日以上以上の食料や飲料水の備蓄」を行ったきっかけは、なんですか。

- |                  |                             |           |
|------------------|-----------------------------|-----------|
| 1 県や市町などのホームページ  | 7 職場や学校                     | (〇はいくつでも) |
| 2 テレビ・ラジオ        | 8 家族・知人                     |           |
| 3 県や市町の広報誌       | 9 ホームセンター等の販売店で防災コーナーがあったから |           |
| 4 インターネット広告      | 10 避難した経験があるから              |           |
| 5 県や市町のイベント      | 11 大きな災害があったから              |           |
| 6 県や市町の防災訓練、防災教室 | 12 その他 ( )                  |           |

【全員にお尋ねします。】

問7 あなたは、現在、食料と飲料水以外の非常持出品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の準備を行っていますか。（○は1つ）

1 まったくしていない→問7-1へ

2 少しはしている

3 かなりしている

4 十分にしている

} 問8へ

【問7で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問7-1 今後、食料と飲料水以外の非常持出品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の準備を行おうと思いますか。（○は1つ）

1 今後しようと思う

2 今後もしようと思わない

【全員にお尋ねします。】

問8 あなたは、過去1年間に、ご自宅での防災学習（家庭で子供と一緒に教材を用いた学習）を行ったり、地域、職場、あるいは学校で、防災教室や防災訓練等に参加したりしましたか。学習・参加した内容をお答えください。（○はいくつでも）

1 地域の防災教室や防災訓練等

2 職場、または学校の防災教室や防災訓練等

3 県が実施している6月の「一斉防災教室<sup>※1</sup>」、もしくは、11月の「一斉地震防災訓練<sup>※2</sup>」

4 「女性のための防災プログラムトレーナー養成講座」、もしくは、トレーナーによるひろしま防災Jカードを使った防災教室

5 「ふれあいサロン防災プログラムトレーナー養成講座」、もしくは、トレーナーによるひろしま防災Gカードを使った防災教室

6 防災に関する講演会やイベント

7 インターネットの防災学習サイト

8 家庭で子供と一緒に教材を用いた学習

9 その他（ ）

10 上記のいずれにも参加していない

※1 一斉防災教室：県が作成した教材をもとに災害危険箇所、避難場所及び避難経路の確認や状況に応じた避難行動などを身につけていただくため、昨年5～6月にかけて行った取組

※2 一斉地震防災訓練：県が作成した教材をもとに、昨年11月に行った、地震から命を守るための行動をとる訓練

【問8で「9 上記のいずれにも参加していない」と回答した方にお尋ねします。】

問8-1 防災教室や防災訓練等に参加されなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

- 1 防災教室や防災訓練等は、時間が長いため
- 2 以前参加したことがあり、内容についてはすでに理解しているから
- 3 防災教室や防災訓練等は、敷居が高く、参加しにくい雰囲気があるから
- 4 防災教室や防災訓練等に参加する必要性がないから
- 5 防災教室や防災訓練等に関心がないから
- 6 防災教室や防災訓練等が、具体的にどのようなことをするものなのか分からないから
- 7 防災教室や防災訓練等の参加者が限定されているから
- 8 防災教室や防災訓練等に参加しても、いざというときに役立つかどうか疑わしいから
- 9 仕事や家事、育児で忙しかったから
- 10 その他( )
- 11 防災教室や防災訓練等が実施していることを知らなかったから
- 12 地域で防災教室や防災訓練等が開催されていないから

【全員にお尋ねします。】

問9 今後、防災教室や防災訓練が行われることを事前にわかっていたら、参加したいですか。(〇は1つ)

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1 参加したい         | 3 どちらかといえば参加したくない |
| 2 どちらかといえば参加したい | 4 参加したくない         |

問10 あなたにとって、次のうちどのような形態の防災教室等が参加しやすい(取り組みやすい)ですか。(〇はいくつでも)

- 1 県や市町が、消防など関係機関と連携して実施する訓練
- 2 学校区や町内会単位で行われる、炊き出しや避難所運営、避難訓練等
- 3 地域の自主防災組織が、公民館や集会所等で住民対象に実施する防災教室
- 4 職場や学校で行われる防災教室・訓練
- 5 学校や町内の別の行事と合わせて行われるもの
- 6 親子で参加するようなイベント会場に設けられた、防災を気軽に学べるコーナー
- 7 参加することで景品がもらえる防災教室
- 8 防災・減災について、必要な知識を学ぶことのできる講演会
- 9 手軽に学べる教材を活用することで、家族や仲間うちで好きな時間に好きな場所で実施できる防災教室
- 10 インターネットにより、一人でいつでも手軽に学べる防災学習サイト
- 11 その他( )

問 11 あなたは、今現在、家具などの転倒の防止(※)を行っていますか。(○は1つ)

※家具などの転倒の防止…金具や「突っ張り棒」、ベルト等による家具固定、転倒防止板の挟み込みなどによる対策のほか、寝室にはできるだけ家具を配置しないなど、地震によって家具等の下敷きにならないための備えも含む

- 1 まったくしていない→問 11-1、問 11-2へ
  - 2 少しはしている
  - 3 かなりしている
  - 4 十分にしている
- } 問 11-3へ

【問 11 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 11-1 家具などの転倒防止を行っていないのはなぜですか。(○はいくつでも)

- 1 どのようにすればよいか分からないから
- 2 大きな地震が起こるかどうかわからないから
- 3 手間や費用がかかるから
- 4 実際に効果があるかどうか分からないから
- 5 倒れそうな家具等はあるが、倒れても支障のないところに置いてあるから
- 6 大きな家具等は置いていないから
- 7 地震は起こらないと思っているから
- 8 住まいが賃貸住宅であるため、手を加えることができないから
- 9 その他 ( )

【問 11 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 11-2 今後、家具などの転倒防止を行おうと思いますか。(○は1つ)

- 1 今後しようと思う
- 2 今後もしようと思わない

【問 11 で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問 11-3 家具などの転倒の防止を行ったきっかけは何ですか。(○は1つ)

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 インターネット広告
- 5 県や市町のイベント
- 6 県や市町の防災訓練、防災教室
- 7 職場や学校
- 8 家族・知人
- 9 ホームセンター等の販売店で防災コーナーがあったから
- 10 避難した経験があるから
- 11 大きな災害があったから
- 12 その他 ( )

### Ⅲ 災害時の避難行動についてお尋ねします

問 1 夜遅くあなたが自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしたとします。揺れが、収まった後、あなたは避難しますか。(○は1つ)

- 1 すぐ避難する → 問 1-1 へ
- 2 しばらく様子を見てから避難する → 問 1-2 へ
- 3 避難しない → 問 1-3 へ

【問 1 で「1 すぐ避難する」と回答した方にお尋ねします。】

問 1-1 あなたがすぐ避難する理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 余震で家が倒壊する危険があるから
- 2 がけ崩れ、山崩れの危険があるから
- 3 津波に襲われる危険があるから
- 4 他所で発生した火災が延焼する危険があるから
- 5 その他 ( )

【問 1 で「2 しばらく様子を見てから避難する」と回答した方にお尋ねします。】

問 1-2 あなたが避難を遅らせる理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 テレビ等で地震の規模や津波の危険性等を確認してから避難の必要性を検討するから
- 2 市町から避難勧告や避難指示(緊急)が出た段階で避難を検討するから
- 3 避難場所の安全を確認するから
- 4 移動中に余震がくる可能性があるから
- 5 夜遅く、停電しているので、外に出るとさらに危険だから
- 6 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
- 7 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなってから避難を検討するから
- 8 電気やガス等火災原因となるものの安全確認をするから
- 9 その他 ( )

**【問1で「3 避難しない」と回答した方にお尋ねします。】**

問1-3 あなたが避難しない理由としてあてはまるものは次のうちどれですか。

- 1 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
- 2 避難場所や避難所までの避難経路が危険だから
- 3 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
- 4 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
- 5 内陸地であるから
- 6 移動中に余震がくる可能性があるから
- 7 自宅が安全だから
- 8 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
- 9 ペットを残して避難することに抵抗があるから
- 10 面倒だから
- 11 その他（）

**【全員にお尋ねします。】**

問2 近年、国内では平成30年7月豪雨をはじめとする大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたの住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を取りますか。(○は1つ)

- 1 移動が困難な状況であっても、自宅より安全な避難所等に避難する
- 2 周辺の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する
- 3 気象情報等でこれまでの総雨量や今後の予報を確認して、避難するか自宅に留まるかを判断する
- 4 市町から「避難勧告」や「避難指示(緊急)」等が出されてから避難するか自宅に留まるかを判断する
- 5 その他（）
- 6 避難しない(避難の必要がない)
- 7 避難行動をとることができない
- 8 わからない

問3 下記の【状況】を想定し、質問にお答えください。

状況

あなたは現在自宅で過ごしています。あなたのお住まいの市町では、今後、大雨・洪水注意報が発令され、非常に激しい雨が降り、河川の氾濫や土砂災害の恐れがあると予想とされています。避難場所までの移動中の安全性は確保されている前提で、下表に記載されている時間帯にそれぞれ避難情報や気象情報等が発令・発表された場合のあなたの行動をお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

発表時間	避難情報・気象情報	避難場所へ避難する	避難場所や自宅以外の安全な場所(知人や別居の親族宅など)へ避難する	自宅の中の安全な場所へ避難する	避難しない
14時	大雨・洪水警報 ※市町からは避難情報は発令されていない	1	2	3	4
↓ 14時で 2~4を選んだ人が回答					
16時	警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始	1	2	3	4
↓ 16時で 2~4を選んだ人が回答					
17時	警戒レベル4 避難勧告	1	2	3	4
↓ 17時で 2~4を選んだ人が回答					
21時	警戒レベル4 避難指示	1	2	3	4

## Ⅳ 学校の防災教育についてお尋ねします

問1 現在、あなたご自身を含め、同居しているご家族の中に、次の方やペットがいますか。(〇はいくつでも)

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| 1 80歳以上の人     | 6 乳児(3歳未満)           |
| 2 高校生         | 7 障がいのある人もしくは体が不自由な人 |
| 3 中学生         | 8 病気の人               |
| 4 小学生         | 9 ペット                |
| 5 未就学児童(3~5歳) | 10 いずれもない            |
- } 問1-1へ

【問1で「2~3」と回答した方にお尋ねします。】

問1-1 県では、毎年梅雨入り前に、「災害から命を守るために」の教材を作成・配布し、学校で活用するよう要請するなど、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたのご家庭の児童生徒が通っている学校の防災教育についてあなたは、どの程度ご存じですか。(〇は1つ)

- 1 学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
- 2 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことがない
- 3 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
- 4 学校で防災教育が行われているかどうかわからない

【全員にお尋ねします。】

問2 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 土砂災害や風水害が発生する仕組みについての学習
- 2 地震の起こる仕組みについての学習
- 3 土砂災害や風水害の被害についての学習
- 4 地震の被害についての学習
- 5 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
- 6 地震が起きたときの初動対応についての学習
- 7 津波からの避難方法や避難場所についての学習
- 8 局地的大雨の避難方法や危険な場所に近づかないようにするための学習
- 9 家庭での防災対策についての学習
- 10 避難訓練の実施
- 11 防災マップの作成
- 12 救急・救命講習
- 13 その他 ( )

【災害から命を守るために(見本)】







問 13 あなたは、町内会・自治会に入っていますか。

また、町内の人々とどれくらい親しく付き合っていますか。(○は1つ)

- 1 町内会・自治会に入っていて、町内に親しく付き合っている人がいる
- 2 町内会・自治会に入っていて、会えば挨拶をする程度の人がある
- 3 町内会・自治会に入っているが、町内の人と付き合いがない
- 4 町内会・自治会に入っていないが、町内に親しく付き合っている人がいる
- 5 町内会・自治会に入っていないが、会えば挨拶をする程度の人がある
- 6 町内会・自治会に入っておらず、町内の人と付き合いがない

問 14 地域での防災活動への関わりについて教えてください。(○はいくつでも)

- 1 自主防災組織で活動している
- 2 自主防災組織や町内会で役員等をしている
- 3 消防団、または水防団に所属している
- 4 町内の避難訓練等があれば、参加する程度である
- 5 町内でイベントや教室があれば、参加する程度である
- 6 その他 ( )
- 7 全く関わりはない

問 15 あなたの町内では、防災活動(防災訓練(避難訓練, 炊き出し訓練, 救助訓練など(消火訓練のみは除く。)), 防災に関する啓発・学習活動など)は活発ですか。(○は1つ)

- 1 活発
- 2 やや活発
- 3 あまり活発でない
- 4 活発でない
- 5 防災活動を行っているのを見たことがない

問 16 県では、災害から命を守るために、県民のみなさんにとっていただきたい行動などを分かりやすく掲載した、ホームページ「みんなで減災 はじめの一步」を開設しています。このホームページについてご存知ですか。(○は1つ)

- 1 知っており、利用したことがある
- 2 聞いたことはあるが、利用したことはない
- 3 聞いたことがない

問 17 防災・減災について自由なご意見をお願いします。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。